Always by Yourside
株式会社ハウスフリーダム

News Release

2023年　9月　1日
株式会社ハウスフリーダム

「決算」について
住宅新報に掲載されました

株式会社ハウスフリーダム（本社：大阪府松原市、代表取締役社長：小島 賢二）は2023年8月10日に大阪証券取引所にて会見を実施した第2四半期決算発表の内容について2023年8月29日(火)に株式会社住宅新報様に掲載されたことをお知らせいたします。

当社では、今後も決算発表の会見を積極的に行っていく予定です。

【８月２９日号　住宅新報掲載】

営業利益40％増に
賃貸収益が伸びる
ハウスフリーダム中間期

昨年12月に東証スタンダード市場に上場した関西地盤のビルダー大手、ハウスフリーダム（本社・大阪府松原市、小島賢二社長）は8月10日、23年12月期連結中間決算（23年1～6月期）を発表した。売上げの半数ほどを占める新築戸建て分譲住宅の販売の落ち込みが響き、連結売上高は前年同期比20・8％減少したが、自社商品建築を軸にした利益率の高い不動産賃貸事業などの売上げが増加したことで連結営業利益は同40・5％増になった。

決算説明会見には小島社長（写真）と河辺豊取締役・管理部長が出席した。連結売上高は主力の新築分譲住宅販売が同4割強減少したため48億8000万円と前年同期から12億8100万円減らしたが、不動産仲介と賃貸事業の収益不動産販売がともに約9・4億円と前年同期から8％、160％増加したことから、連結営業利益は23億5000万円と同6800万円増加し、経常利益も同49・5％増の1億8600万円確保した。

親会社（ハウスフリーダム）株主に帰属する四半期純利益は同12・6％減の960万円だった。小島社長は「前年の同四半期に一過性の特別利益を計上した影響で、今期四半期純利益が前年同四半期を下回る結果になった」と説明した。

セグメント別では、新築分譲事業とともに同社グループの5本柱と位置付ける不動産仲介事業と不動産賃貸事業が好調に推移したが、うち不動産仲介事業は売上高が伸びたもののセグメント利益は同62％減の8700万円にとどまった。「（グループが展開する）大阪・福岡・中部の3エリアで件数は堅調に推移した一方、広告宣伝費の増加が利益減少の要因」となった。

これに対して不動産賃貸事業のセグメント利益は30億4000万円と同1・8倍の大幅増となった。収益物件の販売が前年同期の4棟から7棟に増えたうえ、うち6棟が自社木造アパート商品「F+style（エフ・スタイル）」シリーズが占めたことが大きい。

「エフ・スタイル」は安定稼働による高収益率商品として高い評価を得ており、これを軸に「事業拡大に向け、さらなる開発プロジェクトを進める予定」。第2四半期末までに木造アパート3棟がすでに竣工済みで、木造アパート4棟と鉄筋コンクリート（RC）造マンション1棟が期内に着工した。

23年12月期通期の連結業績予想については、売上高135億円（前年同期比4・1％増）、営業利益6億7000万円（同1・1％増）、経常利益は同1・2％増の5億6000万円）と、2月10日決算公表時の数値を据え置いた。

同社BPS（1株当たり純資産）は752円52銭（前期末。前の期は688円25銭）で、直近（8月18日時点）の株価747円を基にしたPBR（株価純資産倍率）は妥当水準で推移している。

＜報道関係者からのお問い合わせ先＞

株式会社ハウスフリーダム　広報担当　岡野　TEL：072-343-5255
Mail：okano@housefreedom.co.jp